



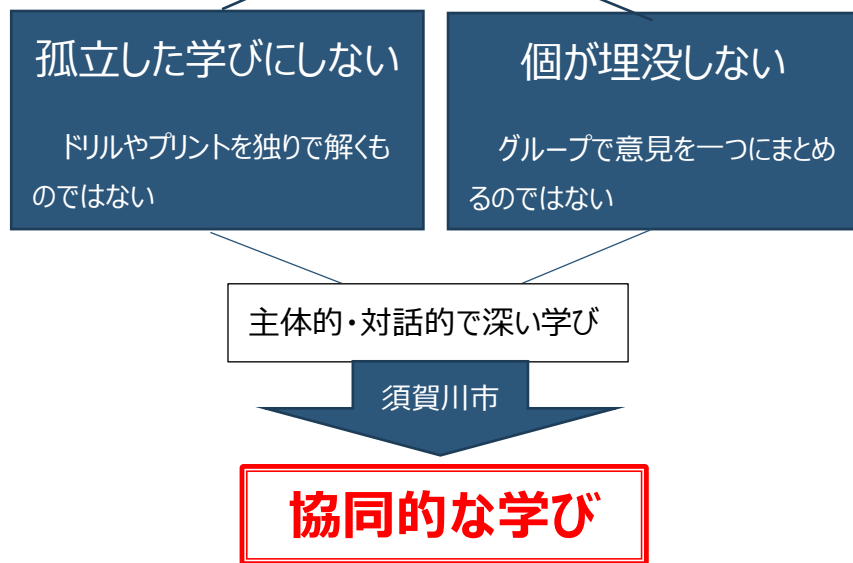
須賀川市立白方小学校

「協同的な学び」について

本校※¹では「協同的な学び」 を実施しています。

※1 須賀川市内全小・中学校でも実施

今、学校には「令和の日本型学校教育」※²が求められています。



※2 令和3年 中央教育審議会答申より

Q&A (よくあるご質問)

Q1 「協同的な学び」にはどんな教育的効果が期待できますか。

A1 「一人残らず学ぶ」「自ら意欲的に学ぶ」ことが期待できます。

Q2 どのような授業スタイルですか。

A2 原則として1・2年生（低学年）はペア、4～6年生（中・高学年）は4人グループを組み、教師の提示した課題に対して資料活用を通して解決する授業スタイルを取ります。

Q3 これまでの授業とはどう違いますか。

A3 教師が説明・質問したことに対して子どもが手を挙げて発表したり、黒板の内容を丁寧にノートに書き取ったりといったこれまでの授業スタイルは必要最小限となります。

Q4 話し合いはさせないのですか。

A4 低学年では、教師の質問に対してペアで話し合う事を指示します。一方、中・高学年では「話し合いましょう。」という指示はせず、一人で考えることも仲間と一緒に考えることも尊重します。みんなで一つの意見やものをつくり上げるのではなく、「一人一人が学びを進める時、いつでもそばに聴き合える仲間がいる」という授業イメージです。

Q5 教師は何をするのですか。

A5 教師は、基本的に課題と資料を出し、子どもたちの主体的な学びに委ねます。学びに戸惑っている子に対しては教材・資料や仲間とつながるようコーディネートします。また、聴き合える関係づくりを進めるために、普段から学級活動を通して互いに尊重し、よさを認め合うことのできる子どもの育成に力を入れます。

Q6 教科書はどのように活用するのですか。

A6 教師は課題づくりの参考として、子どもは課題解決の資料として教科書を活用します。